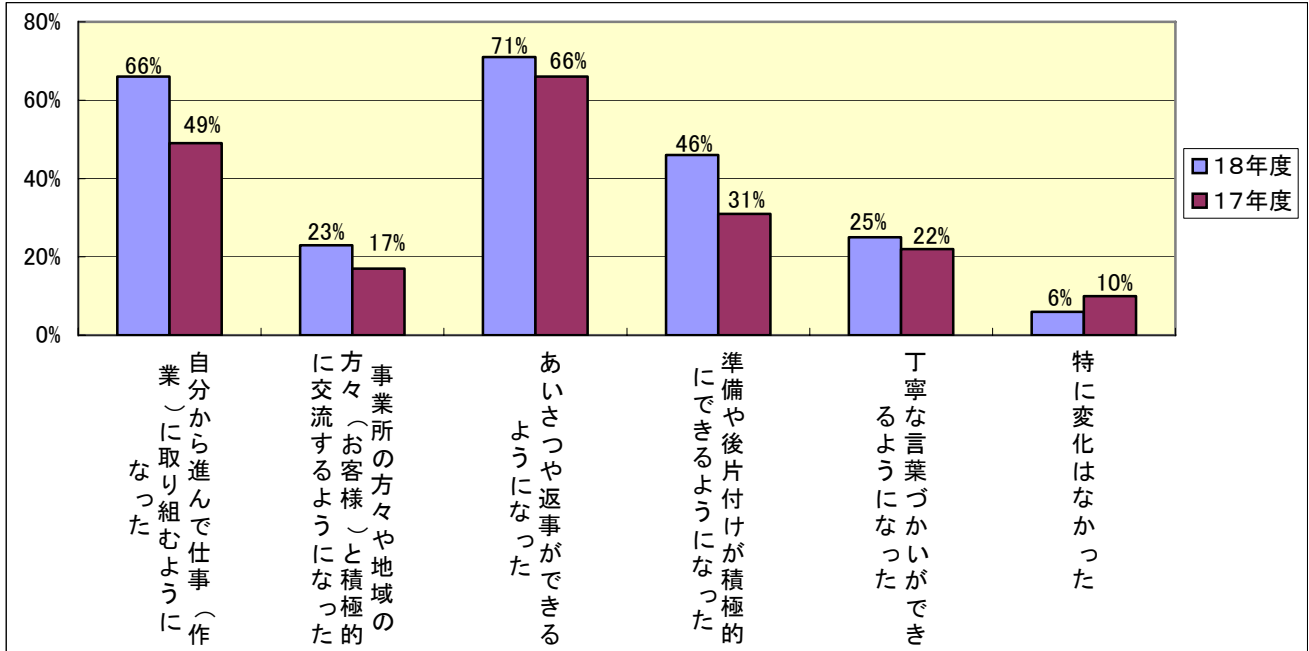


～事業所アンケート～

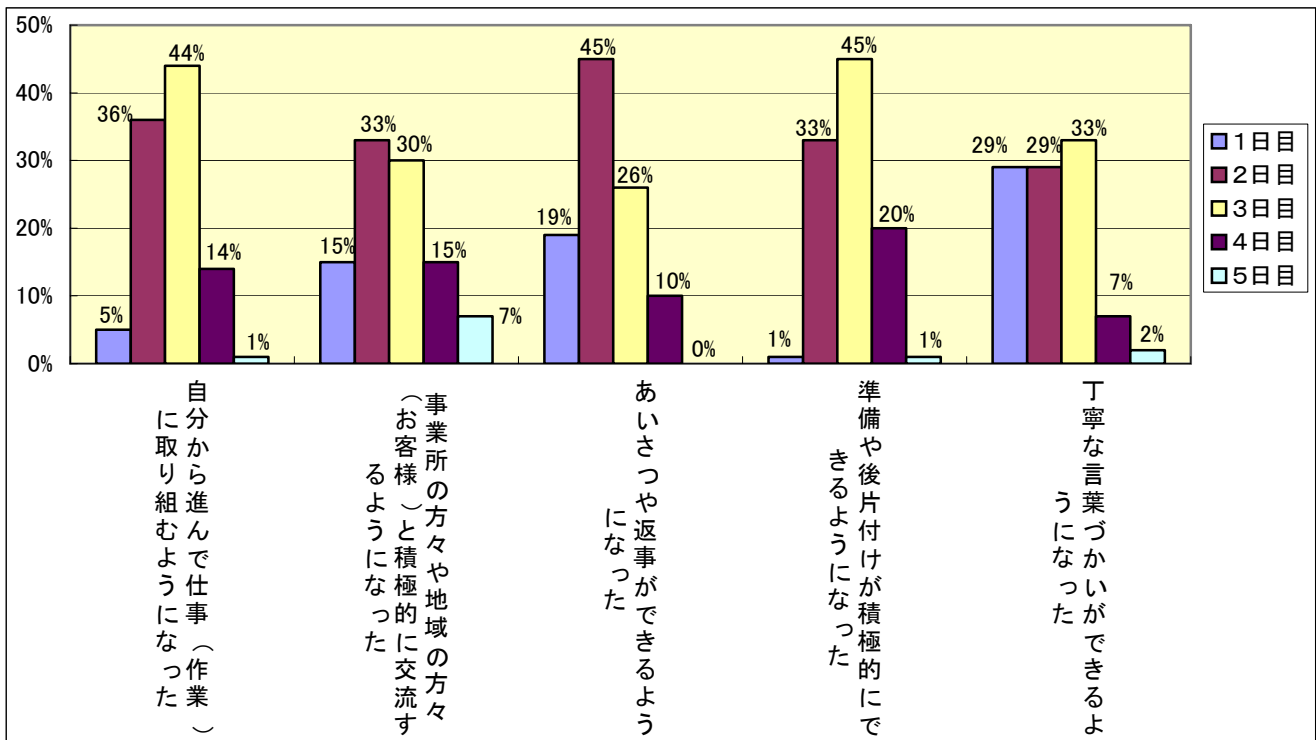
アンケート実施事業所:243ヶ所

回答事業所:167ヶ所(回収率69%)

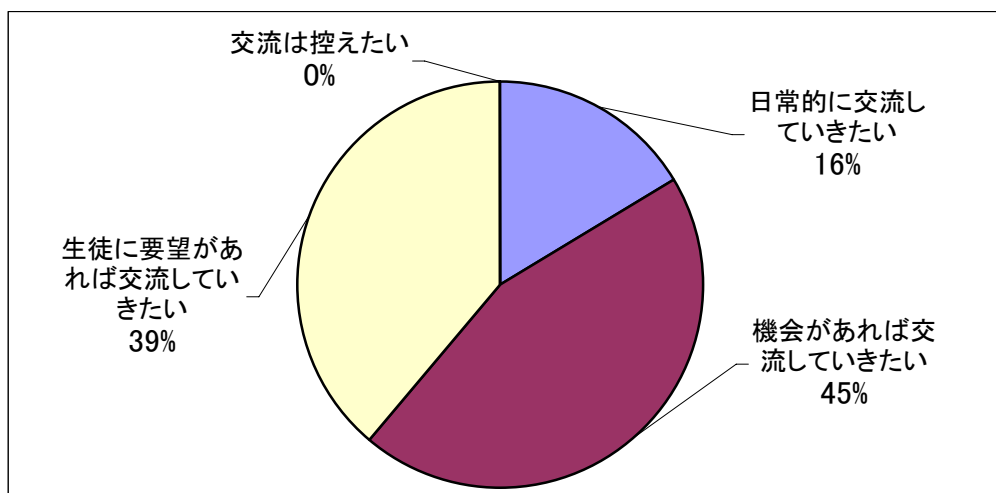
I-1 この5日間をとおして、生徒たちにどのような変化が見られましたか？（複数回答可）



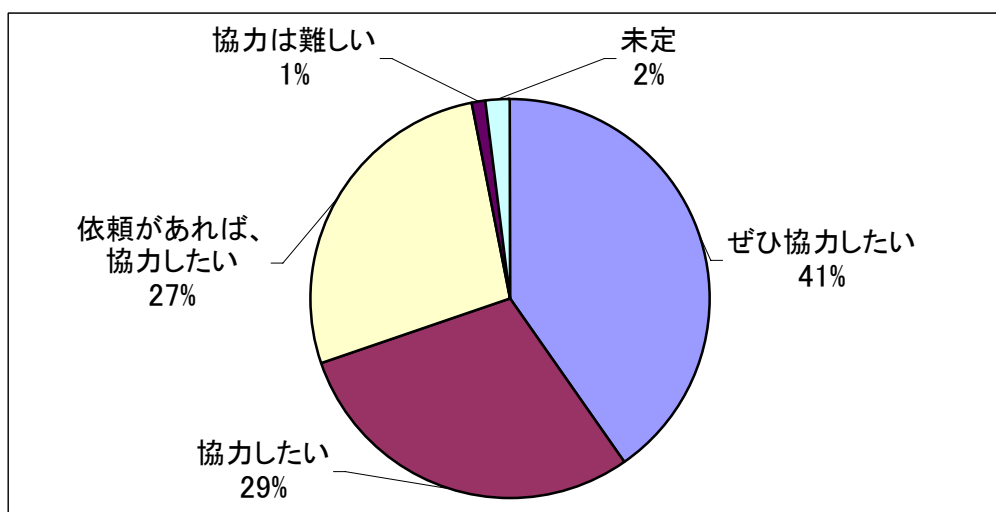
I-2 変化が見られたと答えた方にお聞きします。変化が見られたのは何日目からですか？



Ⅱ 「ワクワクWORK」が終わってからも訪れた生徒たちと交流を深めていただけますか？



Ⅲ 来年以降も、この活動にご協力をお願いしますでしょうか？



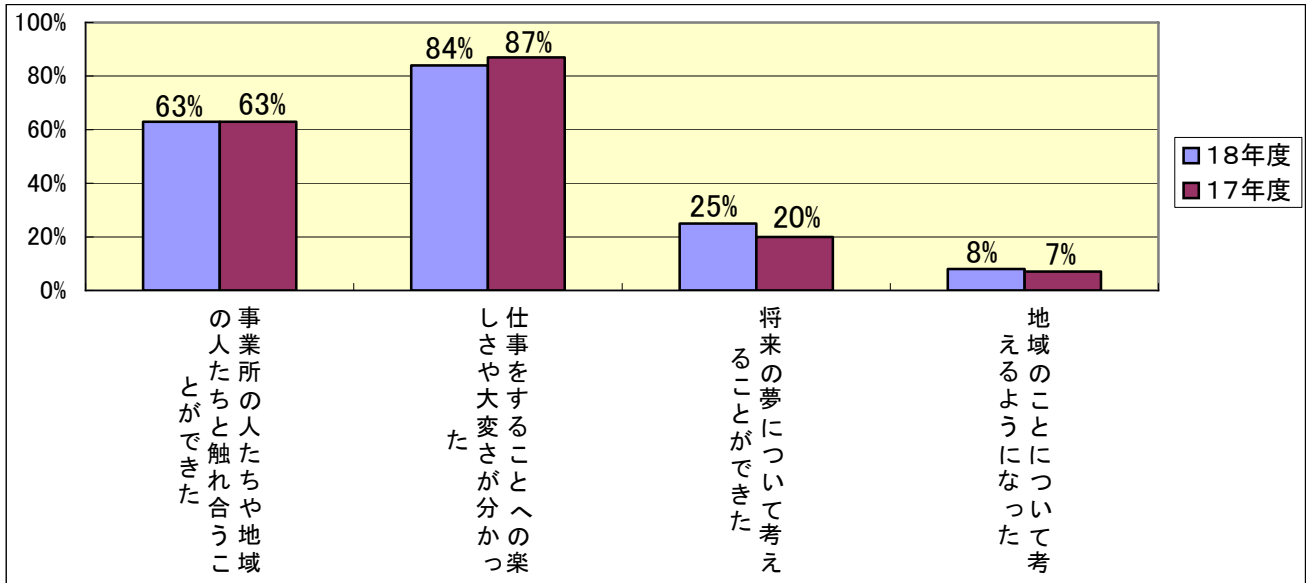
I-2を見ると、地域（お客様）との交流やあいさつ、返事などは2日目からできたという割合が高くなっています。また作業を進んで行ったり、準備や後片付を積極的に行ったりという、より「仕事」の内容に関わる項目は3日目からできたという割合が高くなっています。

少し仕事に慣れてきた4日目、5日目こそ、本当の仕事の厳しさ、大変さ、やりがい、楽しさ、感動といった生徒一人ひとりの心に残る体験学習になると考えられます。ここに本事業の5日間という期間のよさが表れていると考えています。

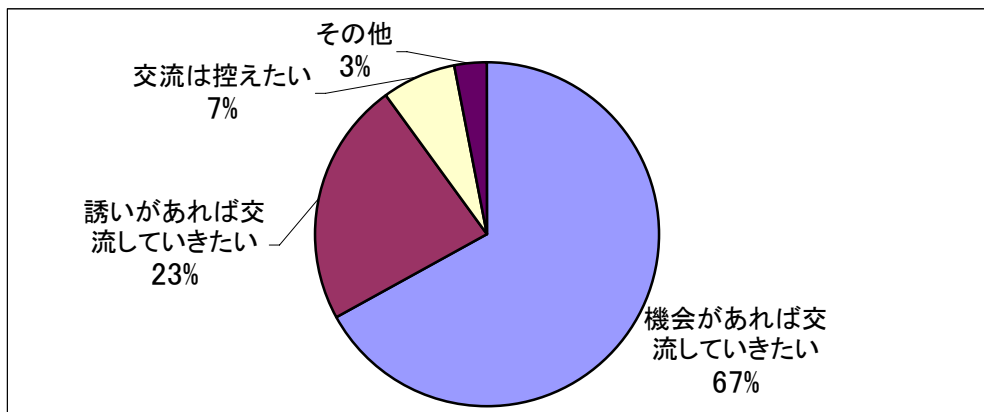
また5日間という期間、事業所の方々が生徒たちとの交流を深めてくださった結果として、Ⅱの今後の生徒との交流に肯定的な意見が100%、Ⅲの今後の「ワクワクWORK」への協力に肯定的な意見が97%という高い数字で表れたのだと考えられます。

～生徒アンケート～

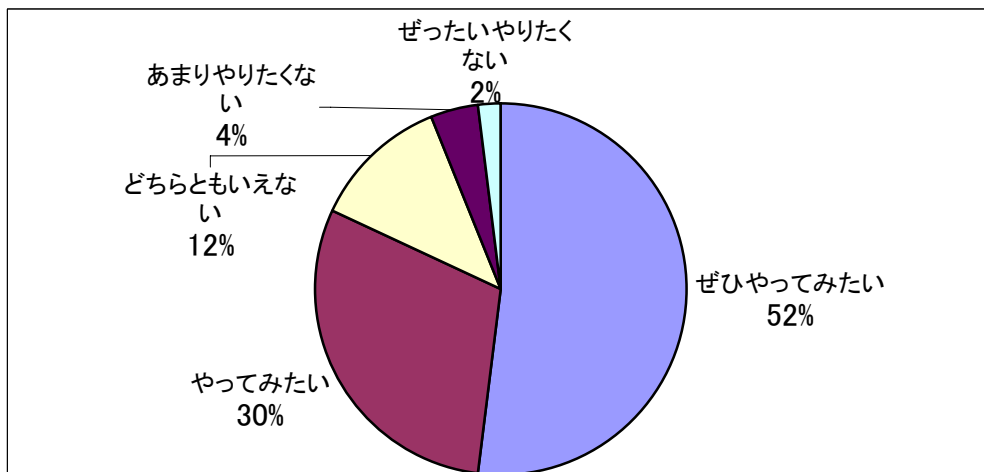
I 「ワクワクWORK」ではどのような体験ができたと思いますか？（複数回答可）



II ワクワクWORK終了後も、今回体験した事業所と交流していきたいですか？



III ワクワクWORKのような活動を、機会があればまたやってみたいですか？



生徒の感想は職種や体験先でも様々ですが、Ⅰをみると、仕事についての楽しさや大変さの理解は80%を超し、多くの生徒が体験によって仕事への理解を深めたようです。また、事業所や地域の人たちと触れ合うことができたと答えている生徒も63%おり、普段なかなか話すことのない事業所・地域の人たちとの交流も行えたようです。

Ⅱの今後体験先と交流をしていきたいかの問いには、肯定的にとらえている生徒が90%で、事業所の方たちと交流を深め、思い出深い体験ができた表れだと考えられます。

Ⅲでは、生徒の希望職種と協力事業所の職種割合の関係で、第1希望の職種に行けた生徒は48%でしたが、また体験をしてみたいと答えている生徒は80%を超しており、第1希望の職種でなくても、生徒にとってよい体験となっていることが考えられます。

《中学校の先生の感想》

期間中、一番印象的だったのは、いつもおとなしい生徒が「いらっしゃいませ！」と元気に挨拶をしている、とてもたくましい姿でした。普段目に見えている店員さんのカッコイイ部分だけでなく、辛く地味な裏方の仕事も見たり体験したりしたことで「働く」ということの喜びと同時に「お金を稼ぐ」ということの大変さも感じる事ができたようです。

また、仕事への向き不向きを含め、将来の自分を真剣に見つめなおすきっかけにもなっていたようでした。中には、体験期間が終わっても事業所（保育園）に足を運び、交流を深めている生徒もいます。そういう意味では、自身の成長のみならず、地域との交流を深めることができ、とても良い体験学習だったと感じています。生徒の変化については、5日間という短い期間だったので、生徒の様子が急に変わった、というのは目には見えにくいのですが・・・それでも、挨拶をするときの声が以前より元気になったり、人と接する時の表情が明るくなったりといった変化はあったと思います。授業の始まりの挨拶などで、声が小さかったり、下を向いたままの姿勢だったりした場合は「ワクワクWORKの時そんな挨拶で通用した?」「そんな挨拶で自分も相手も気持ちよく仕事や買い物できていた?」と一言コメントすると、姿勢を正し、明るく挨拶をやり直すことができています。

また、言葉遣いでも変化がありました。学校では「慣れ」があり、先生に対してもついつい友達に話すような言葉遣いをする子どもが多かったのですが、言い直しをさせると今まで学んできた敬語を使って話そうと努力する子どもが増えてきたように感じています。